

絆

安中市立松井田中学校 学校通信



令和6年12月23日発行 NO.33

文責：校長

2学期お世話になりました～明日から冬休み～

80日間の2学期が本日終業しました。2年生の職場体験学習、1年生の川越旅行、第1回松耀祭、中体連新人大会など、学校行事や部活動の大会が目白押しの2学期でしたが、生徒たちはそれぞれの目標に向かって一生懸命がんばりました。2学期の最後に、新型コロナウイルス感染症の流行で学年閉鎖や学級閉鎖を実施することになり心配しましたが、その後は大きな広がりにならず安心していきます。これからは新型コロナウイルス感染症に加えてインフルエンザの流行も懸念されますので、年明けの入試を控えている3年生は特に健康に留意し、冬休みを有意義に過ごして欲しいと思います。

さて、明日から14日間の冬休みに入ります。生徒たちが楽しみにしている行事も多いと思いますが、気を緩めすぎず、安全な冬休みになるようお願いいたします。特に、SNSを利用して犯罪被害にあう子どもが増加していると同時に、ネット依存から心身のバランスを壊す子どもも増加しています。この冬休みには、生徒のみなさんがネットやゲームに没頭しすぎずに、家の方と有意義な時間を過ごし、1月7日（火）に元気な姿を見せてくれることを楽しみにしています。



冬休み中の平日は学校に日直を置き職員がおりますが、12月28日（土）～1月5日（日）までは、安中市内の小中学校が、学校閉庁日になっていて、日直もおりません。

学校閉庁日中の事故やケガ等での学校への緊急連絡先は、以下のとおりとさせていただきますのでよろしくお願いいたします。なお、閉庁期間中に新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの診断を受けた場合は、1月6日以降に学校にお知らせください。

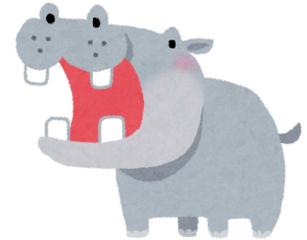
松井田中学校では、緊急時に備え「無応答時転送」の機能を電話に入れてあります。学校に電話をした際、職員が不在の場合でも、一定時間お持ちいただくと教頭宛に転送されます。すぐに出られないときは、留守電の音声ガイダンスが流れますので、「お名前・ご用件・連絡先」を留守録してください。すぐにかかけ直したいと思います。（あくまでも緊急連絡の場合のみでお願いします）

松井田中学校 027-393-1122

終業式での校長からの話です。

今日は「目をなくしたカバ」という寓話を紹介します。

一頭のカバが川を渡っているときに自分の片目をなくした。カバは必死になって目を探した。前を見たり、後ろを見たり、左側を見たり、右側を見たり、体の下を見たりしたが、目は見つからない。川岸にいる鳥や動物たちは「少し休んだほうがいい」と助言した。しかし、永遠に目を失ってしまうのではないかと恐れたカバは、休むことなく、一心不乱に目を探し続けた。それでも、やはり目は見つからず、とうとうカバは疲れ果てて、その場に座り込んでしまった。カバが動き回るのをやめると、川は静寂を取り戻した。すると、カバがかき回して濁らせていた水は、泥が沈み、底まで透き通って見えるようになった。こうして、カバはなくしてしまった自分の目を見つけることができた。



この寓話は、心を静かに保つことで、心の中に舞い上がった泥を沈める時間が大切だということを伝えていきます。

同じように禅語の中にも「七走一座（坐）」という言葉があります。7回走ったら一度は座れという意味です。ここで言う「座る」とは、「心を落ち着けて休みなさい」ということ。しばらく走ったら休息をとり、自分の走りを見直すことが賢明であるということを伝えていきます。

また、「一日一止」という言葉もあります。1日に1回くらいは立ち止まりなさいという意味です。ずっと歩き続けるのではなく、1日1回くらいは自分の歩き方を見直すことで、正しい歩みをつくることができます。そう言えば、「一」「止」という字を重ね、「止」の上に「一」を乗せると「正」という字になりますね。

2学期の間、みなさんは、授業、部活動、習い事……と、大変忙しい毎日を送ってきたのではないのでしょうか？ また、空いている時間ができたとしても、ゲームをしたり、タブレットやスマホの画面を触ったりと、脳をフル回転させて、休む間もなく、泥水の中でもがいていませんか？ 忙しさや不安な気持ちを抱えて、心にゆとりがなくなり、うまくいかないことを人のせいにして、素直さを見失ったりしていませんか？

明日から14日間の冬休みが始まります。授業があるときよりは、時間に余裕があるはずですが、ぜひ、心と体と頭を休ませるとともに、自分を省みる時間をつくってください。受験生である3年生には、「そんな余裕はない！」と怒られそうですが、受験勉強に行き詰まったときは一瞬立ち止まって、「なぜ、苦しい思いをしてまでがんばっているのか」という意味をもう一度考えてみることも大切かもしれません。

冬休みは、これまでの自分を見つめ直し、これからの自分なりの正しい歩みをつくる機会にしましょう。くれぐれも「一日中スマホ」や「一走七座（坐）」にならないように。よいお年を！